

# 魔法のワンドプロジェクト活動報告書 提出要項 活動報告書

報告者氏名：根本 幸恵 所属：福島県立いわき養護学校 高等部 記録日： 27年 2月12日

## 【対象児の情報】

- ・ 学年：高等部3学年
- ・ 障害名
  - ・ 知的障がい・重度重複障がい
- ・ 障害と困難の内容
  - ・ 発語は少なく、ほとんど自発的に話すことがない。
  - ・ 単語「お茶」「ご飯」などの要求ができ、嫌なことは「やめて」と言って拒否することができる。
  - ・ 相手の話を聞いて行動に移すことが時々できるが、その他は、周りの動きを見て活動していることが多い。
  - ・ 危険回避が難しい面が見られる。(痛みを感じる事が難しい面もある)

## 【活動目的】

- ・ 当初のねらい

### <学習目標>

○教師や友達とのかかわりの中で、写真や動画を使用し、コミュニケーションの幅を拡げていくことができる。

### <ipad を使用しての目標>

- ① 本人が、雑誌、食べ物アプリを使用して、文字や言葉だけではなく、実際に見ることにより少しずつ主体的にコミュニケーションの幅が出て来るのではないかと考える。また、家庭の協力も得て、iPad を使用してもらいながら生活の幅も増やし語彙を増やしていきたいところである。
- ② 最近、やりたいことがあると自分で関わりを求めてきているので、本人がジュースミキサーを使用する際に、「動画」「キーノート」などを使用することにより、手順が分かり、活動がスムーズになり主体的に関われるのではないかと考える。
- ③ 家庭や余暇・地域生活や学校間で連携していくには、これから、いろいろな活動を通して伝える力を増やしていく。「Drop Talk」や「写真」や「動画」を使用して、1日の連絡帳代わりや日記代わりになり、本人とのコミュニケーションが多くとれるのではと考えている。

- ・ 実施期間：平成26年4月～平成27年1月

- ・ 実施者：根本 幸恵

- ・ 実施者と対象児の関係：担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

対象生徒は、2年の時の途中から転校してきて、環境の変化になかなかつかめずに来てしまった。授業は、いつも受け身で、学習で主体的に参加することが少なかった。周りの人々とコミュニケーションをとっていく会話する場面もなかった。教師が、「音楽室に移動します。」と言っても、その場の雰囲気ですぐに給食室に行ってしまうこともあった。

行事変更では、言葉でのやりとりや絵カードも理解し対応できずに、教師と一緒に行動することによって支援することしかできなかった。

食べ物には興味を示していて、給食の場面では自分で食器や配膳を行って、普段の学習の様子と違ってスムーズに流れに沿っていくことが多くあった。本人の得意な場面で、積極的に活動できる場面であった。

本人が、ほとんど話せないのが保護者にもなかなか、情報が伝わりにくいところもあった。活動の内容をお知らせすることが必要であると感じた。



・最初は座って、落ち着きながら画面を見るだけだった。  
・少し興味は、あるがなかなか自分で使用しようとはしていない。  
・「やって」などの要求はなく、ただ教師や友達が行っているのを眺めているだけであった。  
・「食べ物」はよく見て、何かを聞いたそうであるが、自分から話しかけることはなかった。

### ○活動の具体的内容

①機器：iPad、実施した時間帯：個別の学習週5時間ぐらい実践活動：本人が朝登校するとiPadの「クックパッド」「YouTube」を教師と一緒に見て、野菜、果物、飲み物などを一緒に言葉にして話していく活動を行った。最初に食べ物名前もどのくらい知っているかを知りたかったので、「これなあに（食べ物）」を使用し一緒に言葉の語彙を見ていく。

クックパッドのアプリは、料理が分類されていたり、季節のおすすめ料理などもすぐに分かって見やすい。

YouTubeのアプリは、特定の食べ物、調理活動がすぐに動画で見られるので使用した。

操作が楽で、普段本人が興味を持っている画像も入れることができる。



「クックパッド」



「YouTube」



「これなあに（食べ物）」

② 実践活動：野菜ジュース作りを作業工程動画を見ながら、教師と一緒に「バナナジュース」作りを楽しむ行うこととした。

③ 実践活動：一日の連絡帳代わりとして用いた。実習日誌もあるが文字のみの記入なので、iPadで写真や動画を教師が撮影し、取った物を保護者と本人に確認をした。また、体を動かすことが好きなので、YouTubeを使用しラジオ体操を行うこととした。

○対象児の事後の変化

① 4月最初は、言葉が出なかったが ipad のアプリ「これなあに (食べ物)」や「クックパッド」を見ていくうち、5月頃には、「そば、ケーキ、おしゃかな、麺、トマト、にんじん、うどん、たまご、いちご、さくらんぼ、ごま、おいも、バナナ」と一緒に発音でき13語発音できることが分かった。

7月には、22語になっていた特に「とっと=トイレ」も教師にスムーズに使えるようになっていた。食べ物の言葉も8語増えて20語になっていた。

12月にまでには、食べ物の語彙がまた増えて25語になった。生活の語彙も増えて6語(やめて、とっと、ぼうぼ=帽子、かか=貸して、くだ=下さい。)になった。このことは、記録を取っておくことがとても大切なことだと思った。



5月、6月頃から話し出す。食べ物の雑誌を見ているところ。



② 生活単元学習で「産業現場等における実習の反省会をしよう」写真や動画を見て、その後、野菜ジュース作りを作業工程動画を見ながら、教師と一緒に「バナナジュース」作りを楽しく行うことができた。本人はバナナが言えるので、使う材料の準備やジュース作りの工程を一通り行うことにより分かりやすく、楽しくようである。「クックパッド」「YouTube」もたくさん飲み物もあり、すぐに取り組みやすかった。

初めは、何も自分からしないで座って待っていた。

しかし、バナナをむいて包丁で切った。



材料を入れて スイッチオンをして、自分で切ることができた。

③ 写真を見ながら作ることもできたが、本人の特性からするとすぐに「動画」で見られて先に進めることが楽しみなので、「クックパッド」「YouTube」にすることで、本人の負担もなく調理実習に取りかかれることができた。手元をあまりにないことが多かった学習が多かったが、この授業では、きちんと包丁やミキサーを見ながら調理を進めていた。その後も、本人が言える言葉から選んで、リンゴジュースあ野菜ジュースを作った。

④ iPad のアプリ「Notel Ledge」で写真や動画を教師が撮影し、取った物を保護者と本人に確認をした。本人も画面が見やすく、カメラで取ってコメントも入り分かりやすく、校外実習の見通しもできた。

「Notel Ledge」

文字、写真、スタンプが扱いやすい所が良かった。

その後、自分から写真や日記を指さして話し出すようになってきた。

一人一人のデザインで表紙を作り日記が作れる

6月と11月に校外実習があり活用した。6月には初めての实習先であったので活動内容やスケジュールも保護者や本人も分かりづらかったようであったが、11月には、一人で椅子に座って余裕を見せながら、ipadを使用し、落ち着いて自分の好きな食べ物を見て単語を話していた。

体を動かすことが好きなので、YouTubeを見ながら自主的に「ラジオ体操」を行うことができた。音楽を流しながらのラジオ体操は本人聞いていなく、4月は体を前後に揺らしているだけであった。「YouTube」を使用してからは、画像に興味を示して画面を見るようになり興味を示して、体を動かすようになり、なかなか腕が上がらなかったのが、肘まで伸びて上がるように変化してきた。

「YouTube」

本人が見ていなかった所を手元ですぐに戻せる。

ラジオ体操（笑顔）体を動かすのが楽しい。

【報告者の気づきとエビエンス】

○主観的気づき

コミュニケーションは、受け身が多かったが、月を追うごとに主体的になってきたのではないかと。楽しみが増えて、自分から調理で使っている材料を覚えて「言葉」に自分から出すようになった。学校でも家でも一人でバランスボールを楽しんで、刺激のみを楽しんでいたが、ビデオを見ながらみんなと一緒にダンスを楽しむ場面が多く見られるようになって、外への発信ができるようになった。

画面を見ているのみ

5月頃から、iPadに興味を示し、指差しをするようになる。

徐々に主体的に画面に触れて、興味を持っていった。

自主的に→

# 校外実習中

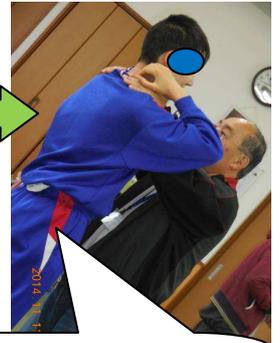
11月



友達と一緒に、落ち着いて iPad を見ながら話している



## バカボール

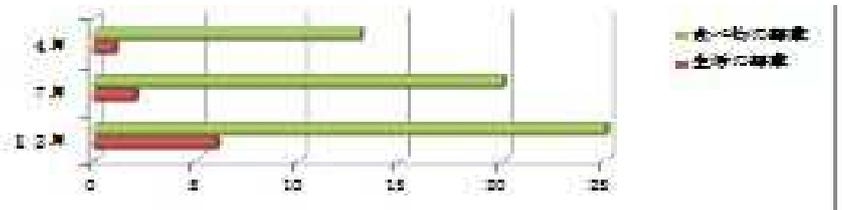


最初不安だったが、自分から相手に近寄って行動していった。

### ○エビデンス（具体的数値など）

生活の語彙はまだまだ少ないものの、食べ物の語彙は著しく大幅に上がった。  
(記録をとることにより、改めて分かったことはすごいことだと思う。)

# 13語 → 31語へ



### ○その他のエピソード

コミュニケーションは、学校、家庭、地域での意思疎通がスムーズになり「本人から要求が出てくるようになった。」と研修した結果がでてきた。特に個別学習、日常生活や給食なので「野菜」「果物」「飲み物」が多く見られた。一つの楽しみ余暇が広がり、家庭でコーヒーを入れているようである。その他に「電車」「車」にも興味があることが分かり、コミュニケーションの幅が広がった。